

かみまち地域支え合い

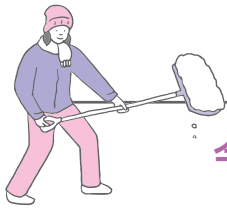
お宝、見つけたよ!

第4号
2023.2

本格的な冬を迎えた1月初旬。宮崎西部地区コミュニティ推進協議会が立ち上げた、「一日家族応援隊」による除雪活動に同行しました。

多い時は1日で30センチ以上の積雪があるこの地では、生活する上で除雪は避けては通れません。地域の方で厳しい冬を乗り越え、待望の「春」の訪れを待っています。





『除雪』から広げる支え合いの輪



令和4年度 第2回生活支援体制整備事業協議体

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、現状は何が課題なのか？何が必要なのか？と話し合いを続けてきたこの会議。その中でも、今年度は「除雪」という観点から、地域での支え合いについて考えてきました。しかし、問題はそれだけではないはずです。地域での暮らしを考えた際、他にはどのようなことが必要でしょうか？



「それいい！」それぞれの視点から多様な意見が。

『地域を創る』話し合いの場

今回の会議では生活支援コーディネーターより、各地区での生活を支える地域資源として、行政区でのミニデイや除雪・いきいきサロン等が現在どのくらい活動しているか、という情報提供がありました。既存の活動やつながりを確認した上で、委員の皆さんは『今後、地域にあればいいと思う活動は何か？』という点について意見を交わしました。

その中から、「空き家を活用し、ミニデイよりも近い場所で住民が集う場を作れないか？」「コロナ禍で孤独感を感じる高齢者が多いならば、傾聴ボランティアは良いのではないか？」などというアイデアや、「見守られる側の『発信力』と『受援力』を高めることも大事なのでは？」などといった考えも生まれ、時間いっぱいまで活発な意見交換がなされました。

協議体のアドバイザーである宮城県社会福祉士会・真壁先生からは「いきなり助け合いや支え合いに発展することは難しい。住民活動を進めるためには、小さくとも多様なつながりをたくさん作る必要があります」との言葉がありました。協議体は次年度も地域を見つめながら、支え合いの輪を広げる話し合いを続けていきます。

高齢者からの『声』

「除雪」「万一の際の見守り」「コロナ禍による交流の減少」これらは、この秋も各地区の民生委員さんにご協力いただき、社協で実施した町内の一人暮らし高齢者世帯訪問の際に、生活課題として多く挙げられた言葉です。

今年の協議体では「除雪」を切り口に、住民活動について様々な意見を交わしてきました。しかし、地域生活を支える活動は当然、それだけではありません。『次』への展開につなげていくためには、どのようなことを考えていく必要があるのでしょうか。



日頃から感じる地域への『想い』を書き出します。



貴重な想いをみんなで共有。次年度へつなげます。

サロンは地域の情報源！



下新田上・ふれあいきいきサロン『さくら会』

「こんにちは～！」「いだよ～、あがらいん！」
サロン代表の遠藤富士子さんが訪ねた先は、会員の後藤仁子さんのお宅。今日は月に一度のサロンの活動日です。

お邪魔したこの日は『冬至』。毎年12月は冬至の日に合わせてサロンを開いている、と言う遠藤さん。いつもならば地区の集会所に集まり、会員みんなで冬至かぼちゃを作って食べるのですが、今年は再び新型コロナウイルス感染症が流行していることを踏まえ、前日に遠藤さんが冬至かぼちゃを作り、それをお土産に会員宅を訪問することに替えたそうです。

『さくら会』は今年で結成5年目。会員は現在8名で、多少の入れ替わりはありますが、同じ班内のご近所さんたちで構成されています。立ち上げのきっかけは、遠藤さんが「地域に外に出なくなった人がいる」と気づいたことでした。地区内にはミニデイサービスもありますが、『ミニデイに来られない人もいます。より近い範囲で皆が集まる場を作りたい！』との思いから、サロンを立ち上げました。



今回の主役の『冬至かぼちゃ』。季節行事を取り入れ、開催方法を考えながら毎月開催しています。



後藤さん（左）と遠藤さん。この日のおしゃべりでも後藤さんの昔話から次々と地域の新しい発見が！

後藤さんに聞く！



サロンって
なじよだ??



Q. いつ頃から参加されていますか？

A. 立ち上げから毎回参加していたんだけど、今はちょっとお休みしてるの。うちのお嫁さんが去年仕事を定年退職したので、今年から少しずつ代替わりと思ってね。

Q. 参加してみてどうでしたか？

A. えら～ぐ楽しいんだよ！最近ではコロナのせいもあるけど、昔みたいに飲み会もなくなったし、会合もない。家にいても何も地域の情報が入ってこないんだよ。サロンに行くと誰かしら新しいニュースを持って来るから、いろんな話が聞けるの。

Q. 前は他にも集まりがあったんですか？

A. このへんはみんな農家だからねえ、昔は農協関係の会合とかが毎月あったんだよ。私も毎回参加して、近所の先輩方から地域のいろんなことを教えてもらう場だったの。今はサロンがその代わり。サロンはすっかり私らの昔話を披露する場だよ（笑）

現在の活動内容を伺うと「午前中は手芸や調理などを行って、お昼を食べたあとはお茶飲みだね」とのこと。コロナ禍でお休みすることもあります。いざ開催するとなると手ぶらで来る人は誰もいない、と言うお二人。家にある物を持ち寄り、中には必ず手作りの一品を持ってくる人も。

「余った食べ物やお花とか、サロンでみんなとやり取りすることも楽しみ」と後藤さんが言えば、「今はなかなか聞けない、地域の先輩たちの昔話を聞くことができるから、私たちも楽しいんだよ」と答える遠藤さん。

「今年で助成は終わりだけど、会費で十分やっていけそう。みんなが楽しんでくれることが嬉しいね」と語る遠藤さん。地域の皆さんにとって、サロンはもはや無くてはならない存在になっているようでした。



その声が、人を笑顔にする

～小野田・長清水行政区『めんこい見守り隊』～

ピンポン♪「おじゃましまーす！」

何気ない日常の朝、長清水行政区で一人暮らしをされている天野美紀子さんのお宅に、今日も6歳と5歳のかわいらしい声が響きわたります。声の主はお隣に住む えいたくんとゆめちゃん兄妹。二人揃っておのだにし園に通っていますが、園に行く前に週に2～3回、美紀子さん宅でババ抜きやバドミントンをして遊んでから出発します。

最初は美紀子さんのお宅で飼っていた牛を見に来ていたのがきっかけで、一昨年に旦那さんが亡くなり、一人暮らしとなった頃から二人が遊びに来るようになりました。以来、二人は美紀子さんのことを『モーちゃんばあちゃん』と呼び、こども園で作った折り紙や道端に咲く花を摘んで、プレゼントとして持って来ることもあるそうです。



「みてー、できたー」

完成した折り紙を自慢げに見せるゆめちゃん

美紀子さんは「二人が来てくれることが、とてもありがたい。地震や豪雨などがあると、モーちゃんばあちゃん大丈夫かなあ、と心配してくれているというのを聞いて、本当にありがたいと思う。二人は私のかわいい見守り隊です」と話し、また、二人のおばあちゃんである下山美栄子さんも「昔からの近所づきあいがこうして孫たちにも受け継がれ、それを受け入れてくれる美紀子さんのような存在がほんとうにありがたいです」と話され、取材する中でお互いに何度も何度も『ありがたい』という言葉を繰り返し使われていました。

めんこい二人の見守り隊は『モーちゃんばあちゃん』に安らぎと笑顔を届け、「おじゃましましたー」「いってらっしゃい！」の挨拶を交わし、今日もこども園へ出発していきます。

令和5年度ふれあい・いきいきサロン助成登録募集！

気の合う仲間と一緒にサロンを作ってみませんか？居場所づくりに是非ご活用ください！

- 【種別】 ・高齢者：参加人数の半数が65歳以上であること
- ・障害者：参加者に障害者（身体・知的・精神）が必ず1名以上いること
- ・子育て：未就学児を保育されている父または母で構成されていること
- 【世話人】 1サロンにつき2名以上とし、うち1名を代表世話人（代表者）とすること
- 【人数】 1サロンの最低参加人数は5名（5世帯）以上
- 【実施回数】 おおむね月1回以上の開催とし、年10回以上
- 【活動場所】 参加者等の自宅や行政区の集会所、公民館等
- 【活動内容】 お茶飲み、食事作り、レクリエーション、外出活動、季節行事、世代交流等
- 【助成金額】 年間活動回数に対し助成金を交付します。（最長5年間）
 - ・10～15回まで：15,000円
 - ・16回以上：20,000円（1～3年目まで）
- ※なお、4年目は10,000円、5年目は5,000円が上限となります。

詳しくは加美町社協ホームページをご覧ください。各地区社協事務局へお問い合わせ下さい。

発行日：2023年2月1日 発行：社会福祉法人加美町社会福祉協議会
〒981-4261 宮城県加美郡加美町字町裏320番地（中新田福祉センター内）
TEL:0229(63)2547 FAX:0229(63)2898 URL:http://www.shakyo.or.jp/hp/288/

※この広報紙は加美町生活支援コーディネーター業務委託に基づき発行しています。